

実践記録

179

シリーズ

「元気の出るふるさと講座（上越市柿崎区・牧区）」

上越市立公民館 小池 和美

1 学習のねらい

上越市は、総面積の約68%が中山間地と言われる地域です。この中山間地では、社会経済構造の変化の中で、人口減少、高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加といった、集落の存続が危ぶまれる大きな地域課題を抱えています。

このような課題に直面している中山間地ですが、豊かな自然環境や美しい景観があり、山々に降った雪は川となり、美味しい米や野菜を実らせ、日本海の豊富な海の幸を育み、私たちの暮らしを支えてくれます。また、伝統芸能や農業技術など貴重な文化が伝承されている地域です。

この講座のねらいは、中山間地の魅力を再発見し、直面している課題や地域の特徴を生かした集落づくりについて考え、学び合うことで仲間づくりをすすめる、公民館を核とした地域の絆づくりを支援することです。今年度の新規事業として、4つの地区（柿崎、牧、大島、谷浜桑取）において講座を実施しました。

2 学習内容

この講座は3年間継続する講座として、今年度は「地域を知る」ことを重点的に企画しました。

この号では、柿崎区と牧区の内容を紹介します。

① 地域が直面する課題と向き合う（柿崎区）

柿崎区では、以前から実施していた成人対象の教養講座「ふるさと楽習塾」の拡大版として、8回コースで実施しました。内容は、「中山間地の現状と課題」「柿崎区の民謡を歌い踊る」「北陸新幹線開通と並行在来線」「清里区へ視察」「増えるイノシシの生態と被害対策」「柿崎区農業の担い手と語る」など、地域が直面する課題の学習が、盛りだくさんでした。

中でも、上越市清里区の視察は、市町村合併で同じ上越市となった中、他地区への理解を深めることの重要性を実感し、柿崎区を見直す機会となりました。



「清里区・グリーンファームを見学」

② 次世代のリーダーを育成（牧区）

牧区では、「食」をテーマに、5回コースで実施しています。内容は、「中山間地の現状と課題」「米粉と夏野菜を使った料理」「新米と秋の素材を使った料理」「雪太郎大根を使った料理」などで、子どもと一緒に参加可能にしたところ、主に30代の子育て世代が集まりました。

牧区で食文化の伝承や、高齢者の配食サービスなどの活動を行うNPO法人よもぎの会や、農事組合法人雪太郎の郷など、地域で活躍する女性陣に講師をお願いし、「地産地消・食の安全」「特産品の活用」「親子のふれあい」の観点を意識しながら、毎回賑やかに、楽しく活動を行いました。

普段の食生活では、あまり馴染みの無かった米粉や、ばななかぼちゃ、なますかぼちゃなどの「上越野菜」と呼ばれる食材などの活用方法を学ぶことができ、受講生の仲間づくりが深まりました。



「お父さん、お母さん、子どもも一緒に料理」

3 市長部局との連携

上越市では、平成23年6月に、中山間地域の振興に関する施策を継続的に推進するため、施策の基本理念や市の責務、指針等を明らかにした「中山間地域振興基本条例」が議員発議により制定されました。

これにより、各部局で関連施策が展開されていますが、この「元気の出るふるさと講座」もこの一環で開講したもので、市自治・地域振興課と連携しています。各地区公民館において、中山間地域における集落の実態調査の結果や、この条例の理念について学ぶことで、私たちのふるさとについて理解を深めるとともに、さまざまな学習を通して、「自分が地域の一員としてできることは何か」を考えることができる人が増えていけば、もっとこの地域は元気になっていくと思います。

大島区と谷浜桑取地区については、3月号で紹介いたします。お楽しみに！